

3年ぶりの国内研修事業を オンラインで開催

藤原さん（厨川中）と
白石さん（大宮中）が参加

コロナ禍の影響で開催の中止が続いていた日本PTA主催の国内研修事業ですが、令和4年3月28日～29日の2日間にわたって、3年ぶりに開催されました。

直前まで、大洲青少年交流の家（愛媛県）での現地開催を模索しましたが、最終的にオンライン研修という形での開催になりました。

本県からは藤原舞柊菜さん（厨川中学校）と白石遼太郎さん（大宮中学校）の2名が参加しました。

そこで、お二人から研修に参加しての感想を寄稿していただきましたのでご紹介します。

生きるために

盛岡市立厨川中学校

藤原 舞柊菜

私が今回の研修で特に印象に残ったことは二つだ。

一つ目は、無理に完璧な両立を目指さなくても良いということだ。その時

に吸収したものが、大人になって役立つ。だから、自分のバランスで良いから、全力を尽くすことが大切だと感じた。

二つ目は、辛い時こそ笑顔でいるということだ。その時期をあえて味わう「やるしかない」気持ちで頑張ることが大切だと感じた。「今は雨マークでも、一ヶ月後には晴れマークだから」という言葉が心に強く残った。

今、私は生徒会長、また受験生として生活している。コロナの影響で思うように活動は出来ていないが、それを逆手に取り、今だからこそできる活動を考えて生活していきたいと思う。未来を予測することは出来ないが、経験を積み、主体的に活動することで、未来を変えることは可能であると考える。だからこそ仕事を進んで引き受け、悩みを何回も重ね、様々な壁を乗り越えていきたいと思う。100パーセント叶うとは限らないが、やったことは無駄ではないと信じ、自信を持ち続け、笑顔で生きたい。自分と守りたい人のために。



コロナ禍の中で学んだこと

つながりの大切さ

盛岡市立大宮中学校

白石 遼太郎

愛媛で行われるはずだった研修。新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催と決まったときは、正直落ち込みました。

しかし、オンラインならではの講話や参加者同士の自己紹介、グループミーティングなどの活動を通して新たな出会いの輪が広がり、他県の人とつながるといっても貴重な体験をさせていただきました。

また、愛媛と中継をつなぎ、まるで本当に愛媛に行ったような気分になれる「愛媛クイズ」など、楽しい企画がたくさんありました。「オンラインで大丈夫かな」と不安に思ったこともありましたが、本当に参加して良かったと思える研修でした。

今回の研修のみならず、現在、多くの活動が新型コロナウイルスの影響で

規模縮小またはオンラインという形で行われています。ですが、このような状況を逆手にとり、コロナ禍ならではの「つながり」を育む事が大切なのではないかと思います。

この2日間で学び、気づいたこと、そして、もう中学生(芸人)さんの「感謝を忘れずに」というメッセージや、マーティンさんの「何事も全力で」というアドバイスを胸に、これからの学校生活にいつそう励んでいきます。



編集後記

▶新年度がスタートしました。

コロナ禍はまだ終息とは言えませんが、徐々に日常が取り戻りつつあるように感じられます▶PTAリーダー研修会も3年ぶりに開催されます。全国大会山形大会は通常開催です▶研修の歩みを止めずに共に進みたいものです